

日本で承認されているHPVワクチン

(2025年8月時点)

ワクチン名 [製造販売]		サーバリックス (2 価HPVワクチン) [グラクソ・スミスクライン]	ガーダシル (4 価HPVワクチン) [MSD]	シルガード9 (9 価HPVワクチン) [MSD]
ワクチンのタイプ		不活化ワクチン※ ¹	不活化ワクチン※ ¹	不活化ワクチン※ ¹
対象年齢		10 歳以上	9 歳以上	9 歳以上
接種回数 (接種間隔)		3 回 (0、1、6 ヶ月間隔)	3 回 (0、2、6 カ月間隔)	3 回※ ² (0、2、6 カ月間隔)
感染予防効果		50 ～ 70%※ ³	50 ～ 70%※ ⁴	80 ～ 90%※ ⁵
副 反 応	軽いもの (10%以上の確率)	・注射したところの痛み、赤み、腫れ ・関節痛 ・頭痛 ・だるさ など	・注射したところの痛み、赤み、腫れ	・注射したところの痛み、赤み、腫れ
	軽いもの (1 ～ 10 %の確率)	・じんましん ・めまい ・発熱 など	・注射したところのかゆみ、不快感 ・頭痛 ・発熱 など	・注射したところのかゆみ、出血 ・頭痛 ・発熱 など
	軽いもの (1 %未満の確率)	・注射したところの知覚異常 ・しびれ感 ・全身の脱力	・手足の痛み ・腹痛 など	・手足の痛み ・腹痛 など
	重いもの (頻度不明)	・ショック、アナフィラキシー ・ギラン・バレー症候群 ・急性散在性脳脊髄炎(ADEM)	・アナフィラキシー ・気管支 けいれん ・ギラン・バレー症候群 ・急性散在性脳脊髄炎(ADEM) など	・アナフィラキシー ・気管支 けいれん ・ギラン・バレー症候群 ・急性散在性脳脊髄炎(ADEM) など

※¹ 感染力をなくした病原体や、病原体を構成するタンパク質からできています。1 回接種しただけでは必要な免疫を獲得・維持できないため、一般に複数回の接種が必要です。

※² 初回接種を15歳未満で受けた場合は、初回接種から6～12カ月の間隔を置いた合計2回の接種とすることができます。

※³ 子宮頸がんを最も起こしやすい型であるHPV 16型と18型の感染を防ぐことができるため、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぐことができます。

※⁴ HPV 16型と18型に加え、6型と11型の感染を防ぐことができ、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぐことができます。

※⁵ HPV 6型、11型、16型、18型に加え、ほかの5種類(31型、33型、45型、52型、58型)の感染を防ぐことができ、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぐことができます。

参考:サーバリックス®、ガーダシル®、シルガード®9 の各添付文書(一部改変)、HPVワクチンについて知ってください～あなたと関係のある“がん”があります～(2025年2月改訂版、厚生労働省)、高校1年相当の女の子と保護者の方へ 定期接種最終年度のご案内(2025年7月、厚生労働省)